

上智大学・カトリック高等学校連携協定校対象
高校生タイ・スタディーツアー

第2期(2024年7,8月実施)プログラム実施レポート

学びで高校と大学をつなぐ、上智大学と高校生の海外教育プログラム

上智大学と全国のカトリック高校の連携協定のもと、学びで高校生と大学を接続するプログラムの1つとして、上智大学SFDP推進室および上智大学タイ教育事業会社SophiaGEDが、タイ・バンコクをフィールドとするスタディーツアーを企画・実施。2期目となる2024年度夏季シーズンは、A,B2日程の開催で60名の高校生が参加しました。



「新しい環境・機会を自分に取り入れ、学びや力に変える」

上智大学と高校生との海外プログラム。全国各地から初対面の高校生メンバーが集まり、大学教員や大学生スタッフと一緒に海外のフィールドで多様な経験をし、各自の学びを追究しながら、互いに学び合える充実の学びの場となりました。

新しいコミュニティ・環境での大学ベースの学習体験が、高校生の未来へつながる力となるよう、特に、自分の目的意識や自律的な学び方がより重要となる大学への接続を意識して、「自分たちで自分の学びを創る意識や、新しい環境での経験を自分の学びとして取り入れる力を伸ばすこと」を目標に置きました。

現地の大学・日系企業や団体・ローカルコミュニティ・スラム地域支援団体など、多様な層にわたる訪問先で現地の方々やタイで活動する日本の方々との対話や交流・現地活動を通じて学んだり、自分達で目的や手段を決めて現地に飛び込んでのフィールドワークも経験。そして、貴重な経験や思考はワークブックへたくさん記録し、まとめのセッションでは、書き溜めた記録を可視化・構造化し自分の学びをしっかりと掴むことも試みました。

高校生みなさんは、タイでのさまざまな実体験や参加者間での交流・学び合いを通じ、異文化の理解や新しい物事へ向かう力を培ったり、先への目標を見出したりしていました。また、プログラム参加経験を通じて、学ぶことへ対する意識・学習観や、自分を取り巻く世界への感覚、人生観などにも気づきや変化が生まれた様子も見られました。

高校生みなさんの、これからの学びや自分の世界を広げていく力に繋がることを願っています。



実施概要

| | |
|------|--|
| 日程 | 事前ガイダンス 2024年7月7日(日) (A,B合同 オンライン実施) 渡航プログラム Aグループ 2024年7月22日(月)~27日(土) Bグループ 2024年7月30日(火)~8月4日(日) |
| 参加者 | 上智大学カトリック連携協定校 高校1-3年生 Aグループ29名、Bグループ31名 |
| 担当者 | 新 江梨佳 (上智大学特任助教/SophiaGED教育プログラムディレクター) Sophia GED タイ現地スタッフ 上智大学 学生インターン |
| 場所 | タイ・バンコクと周辺地域 |
| 主な活動 | 現地大学・地域支援団体・地域コミュニティ等での多角的な体験学習 自分で設定するテーマやミッションに基づくフィールドワーク実践 発見や経験を学びにつなげるワークショップ |
| 企画実施 | 上智大学 学事局 Sophia Future Design Platform 推進室 Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd. (SophiaGED) (上智学院 タイ教育研修事業会社) |



| 日程 | 場所 | 活動内容 |
|-----|----------------|--|
| 1日目 | 各地・東京 バンコク | (各自移動)日本各地 → 東京 移動:東京 → バンコク(空路) |
| 2日目 | バンコク ナコンパトム | タイ文化体験 仏教寺院訪問・体験 大学訪問 キャンパス見学・学生交流・英語レクチャー 現地生活体験 市場体験 |
| 3日目 | バンコク | 地域文化体験 地域の方との文化ワークショップ 社会課題学習 スラム地域支援団体訪問 |
| 4日目 | バンコク | エリアフィールドワーク 複数エリアでグループ探索 グローバルキャリア学習 日系企業・団体訪問、夕食交流 |
| 5日目 | バンコク | 自己計画フィールドワーク 総括ワークショップ 移動:バンコク → 東京(空路) |
| 6日目 | 東京 各地 | 東京着 (各自移動)東京 → 日本各地 |

実施の様子

1 多様な経験・体験

自らの経験をもって実践的・多角的に考える

渡航プログラムとして、自らの経験を持って考え学ぶことを重視。寺院・地域コミュニティ・大学・日系企業・商業地・スラム地域支援団体など多様な層にわたる訪問先を取り入れ、能動的に取り組む活動や体験ベースで学べる機会を設けました。

自らの経験を持って多角的にタイを捉えたり、多様な経験から個人に応じて学ぶポイントを見出したりできるよう、思考の材料となる多くの経験・実体験を重ねました。



マヒドン大学訪問 (2日目)

タイトップ大学のマヒドン大学を訪問。大学生と英語や手段を工夫してコミュニケーション。大学のことやタイ語を教してもらったり、現地教員の英語レクチャーで双方の国の文化を題材としたディスカッションに取り組みました。



地域コミュニティ訪問 (3日目)

地域の方々に教わりながらタイの伝統菓子作りや工作を体験。文化体験に加え、住民の方が暮らすエリアの環境や雰囲気を観察・感じ取ったり、覚えたタイ語で現地の人に気持ちや伝えたいことを試みました。



スラム地域支援団体訪問 (3日目)

貧困層の方への支援団体を訪問。日本人スタッフの方にお話を伺うことに加え、地域を実際に歩き、暮らしを体感しつつ、住民の方々と挨拶を交わしたり子どもたちと交流。多様な立場の人に直接関わりながら実態を見て考えました。

2 自律的な活動実践

自分の意志で学びや活動を創る力をつける

大学や将来に向け、自ら考えて動き、自由度を活かす力を伸ばす機会を意識。大学訪問など比較的内容まで用意された活動から、徐々にテーマや手段を自分で設定して実践するフィールドワークなど参加者自身が考えたり決めたりする活動へ移行。参加者みんなでルールを決めての自由行動時間も設定しました。責任や難しさも含めて自律的な活動の面白さを体験し、できることが増える自信もつけながら、先への姿勢に繋がりました。



エリアフィールドワーク (4日目)

自分のテーマと具体的方法・ミッションを設定し、グループで協力しながらエリア内を自由探索するフィールドワーク。観察・体験や、人の関わりの機会を自分で創りながら、実践的に理解を深め、同時にスキルも伸ばしました。



自由探索フィールドワーク (5日目)

自分達で目的・行き先・活動を設定して自由探索。電車で新しいエリアを開拓したチーム、興味に関連するエリアを探して散策したチーム、迷いながらも足を使って土地勘を掴んだチームなど、楽しく積極的に行動できました。



自由行動時間

みんなで決めたルールに沿って、ホテル戻り後の時間も近隣の散策してタイを体験できる時間に。自分達でしっかり管理・判断しながら新しい地で活動する力を実践的に伸ばし、それができると広がる機会や可能性を体感しました。

3 経験の言語化・構造化

自分の経験や思考を整理・認識して学びに変える

経験や思考を言語化・記録・構造化し、自分の学びを意識的に捉える学習活動を、全体を通した軸としました。

プログラム用に作成したワークブックを用い、自分のミッションを言語化してから開始したり、日々の活動記録を每晚ホテルで各自しっかり記録。最終日には書き溜めた記録を付箋に書き出して俯瞰し、全体の学びを可視化・構造化することで、自分にとっての学びや成長をとらえることを試みました。



ワークブック記録 (プログラム全期間)

A5見開きのワークブック項目に沿って、1日の経験や気持ちを毎晩しっかり記録。「ノートをつけるのが楽しくなってきた。自分の考えを書き出すことで整理することで、今日自分が何を学べたかが明確になる気がする。」という気づきの記録も。



ラップアップ: 経験や思考の整理 (5日目)

日々書き溜めた記録から付箋に書き出す数十枚に。繋がりや重なる考えながら全体を整理し、プログラムを通じて自分の学びを掴みました。「ツアーを通して、自分がたくさん考えることができたのが見えて嬉しかった。」と実感も。



ラップアップ: 各自の学びの発表 (5日目)

付箋で整理した紙をスクリーンに投影しながら、1人1分で自分の学びを発表・共有しました。自分にとってプログラムがどんな機会だったのかを表現したり、一人一人観点が異なることにさらに学びを得たり、爽やかな時間となりました。

4 参加者同士の交流と学び合い

全国各地から集まった異なる学校のメンバーが、渡航前からのLINEグループやガイドスでの交流、協働的な現地活動を通じてどんどん関係を深めていきました。

新しい人間関係を築きながら経験を共にする機会が、高校生にとって普段と異なる刺激や世界の広がりとなっていました。



オンラインガイドスから交流



移動や食事メンバーとの貴重な時間



参加者の学び

プログラム内の活動・経験からの学び・展望

タイや異文化への興味理解、実体験の大切さの気づき

- ・ 沢山のタイの文化や社会状況を自分の目で見て知れた。細かいところにも目を向けて「なぜ?」と思ったことを自分なりに「わかる」ようにできたと思う。日本にとどまるだけではなく、現地に訪れて学ぶ楽しさに気づけた。
- ・ 色々な人の話を聞いたり実際に街を見たりすることで、タイの文化について深く知ることができた。スラムに住む人々など自分が今まで知らなかった人たちの生き方や、仏教とタイの人々の考え方の関係についても触れることができた。
- ・ もっと「初めて」を経験するために様々な国に行ってみよう。

人との関わりの広がりや学び

- ・ 自分の内向的な性格が様々な人と関わることによって少し外交的になり、色々な人と交わり、人間関係を築くことによって沢山のことを学ぶ楽しさを知った。
- ・ 周りのレベルの高い高校生との恵まれた環境で学習できる機会のありがたさについても学べたし、あらためてもっと頑張ろうと気持ちを引き締めることができた。
- ・ 仲間達との夢と目標ができたのでそれらを目指してがんばっていきたいです。

今後やりたいことや将来に向けた目標

- ・ まとめワークで今後の自分の課題を設定したので、その課題のふせをひとつひとつ取れるようにこれらから努力する。
- ・ スポーツを通じて、世界中を笑いのたえない世界にしたい。このスタディーツアーで培った知識や考えはスポーツの事業やイベント、企画に応用できると思います。
- ・ タイ文化を知るには、まだまだだだと思います。きっともっと長く滞在しないと見えてこない面がたくさんあると思います。なので、絶対にまた戻ってきたいです!

プログラム全体を通じた学習観や人生観に関する気づき、変化

学習観・学び方への気づき

- ・ 机に向かう勉強では、こんなに考える・思索することはなかったと思います。自分の体験や知識を合わせてフル活用して「考える」ことこそが、「本当の意味での勉強」なんだと思いました。初めて「学ぶって楽しい!」と心の底から思いました!
- ・ 「言語化して、自分と向き合う」ということの大切さに気づくことができた。これをするだけで経験が成長につながると思うし、さらに次の機会にもより良い深い学びへと進歩していくのだと思う。このプロセスを大切に、より深い学びを得ていきたいと思う。

人生観、自分の可能性への期待・抱負

- ・ 参加して感じたことは「世界は広い」。プログラムで色んな人、知らなかったもの・ことに出会って、今の自分がいる環境が人生の全てではないと気づいた。将来について考えると不安はまだあるけどすごくワクワクしている。一緒に楽しい友達に出会えたり、沢山笑った。少し自分のことを好きになれた。自分で勝手に限界を決めないで挑戦し続けようと思った。
- ・ 人生なんてきっかけ一つで変わるんだと実感。その時にワクワクする道を全力でやりたい。必ずどこかでつながると信じる。